

蔵書 200 万冊の歴史の重みと新たな図書館活動の展開

図書館長

野上修市

本年次報告書は、本学図書館の 2002 年度における様々な活動の軌跡を示すものである。

図書館の活動に関しては、既に「自己点検・評価報告書」、「教育研究に関する年度計画書」が公表されている。しかし、図書館の活動の軌跡を年度ごとに客観的に、かつ詳細に示すものは本報告書である。したがって、本報告書の公表は、図書館利用者および本学関係者に図書館の現実を見ていただき、その評価と意見を拝聴し、次年度以降のあるべき図書館の姿を描いていく材料と言う意味を持っている。

本報告書の刊行は、本年で 4 年目になるが、図書館の歩みの客観的な歴史を示すものとして貴重な資料となる筈である。本学図書館は、2005 年末に「明治法律学校文庫」開設 120 年を迎える。そのため、2003 年度から「明治大学図書館 120 年史(仮称)」の編纂に着手した。今後、同年史が本学図書館のこれまでの歴史を紐解く際の、重要な資料となることは間違いない。したがって、同年史の完成には、図書館の全エネルギーを投入するつもりである。

ところで、2002 年度末に、本学図書館の蔵書が 200 万冊を超えた。ここまで歩んでこられたのも、現図書館員はもちろんのこと、先輩教職員をはじめ、関係諸氏の努力の結果であり、身の引き締まる思いである。本学図書館は、1923 年(大正 12 年)9 月の関東大震災により全ての蔵書を焼失したという不幸な歴史を持っている。不幸中の幸いであったが、貸し出し中により焼失を免れ、その後図書館に返却された和漢書 32 冊、洋書 39 冊、計 71 冊の蔵書から、再建がスタートした。震災後図書館はいち早く再出発に乗り出し、学生、教員、校友、他大学、海外の図書館に向けて図書寄贈の依頼文書を送付した結果、多くの図書が本学のために寄せられたそうである。このような本学図書館の歴史に触れる時、蔵書数 200 万冊の重みを改めて感じざるを得ない。

実際の図書館運営は、図書館事務部長以下全図書館員が情熱を持ってあたっている。2002 年度も着実な歩みを展開し、同時に、新たな利用者サービスもスタートした。また、業務改革にも積極的に取り組んできている。大学のおかれた環境は依然厳しいものがあるが、私は、図書館利用者サービスの向上のために今後とも全力投球する所存である。したがって、図書館活動に対する一層のご理解とご協力を賜れば幸甚に存する次第である。